

デジタル放送におけるコンテンツ保護

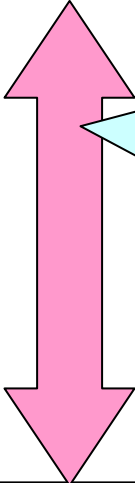
目次

- 基本的考え方
- コンテンツ保護方式の概要
- 『1世代のみコピー可』の運用

2006年6月28日
NHK総合企画室
〔デジタル放送推進〕
藤沢 秀一

基本的考え方

権利者がデジタル番組に安心して参画できる環境によって、
良質のデジタル番組(リッチコンテンツ)の制作・調達が可能(権利の保護)

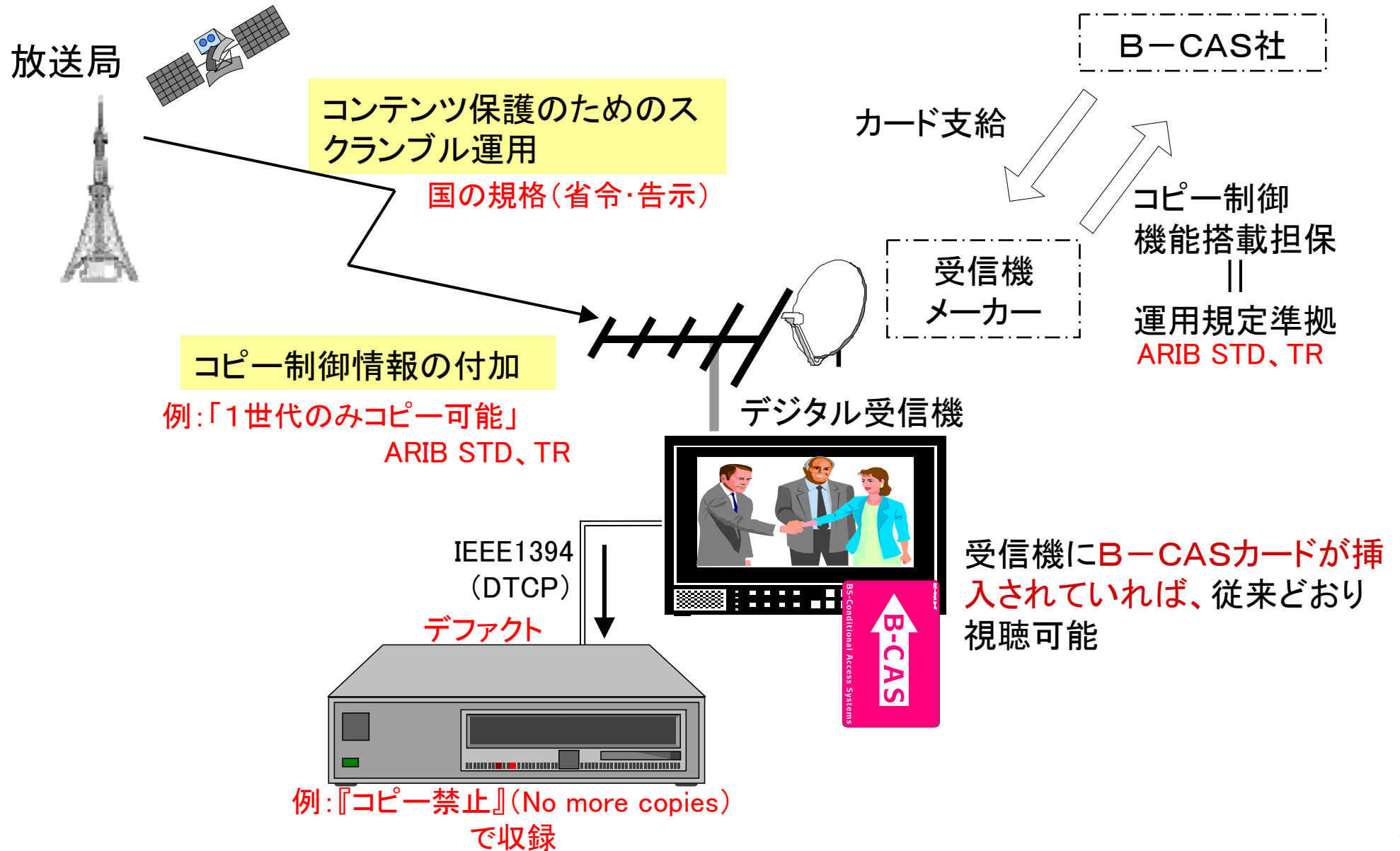
- 
- ① 両者のバランスを取った“コンテンツ保護”が重要
 - ② 2002年、情報通信審議会での審議、意見募集を経て、「コンテンツ権利保護方式」に関する総務省令を改正し、コピー制御の導入が可能に
 - ③ 省令改正を受け、受信機メーカーとの協議に基づき、2004年4月からデジタル放送においてRMPを導入

【導入したコンテンツ保護の考え方】

デジタル放送でのリッチコンテンツの放送を確保し、“私的録画”の機会を確保したうえで、デジタル番組の違法流通を防止し、視聴者が無意識に違法行為を行わないよう抑止(視聴者の利便性の確保)

著作権法第30条は「権利者の権利制限規定」であり、あくまでも限定的な運用(私的録画の範囲)が前提

コンテンツ保護方式の概要

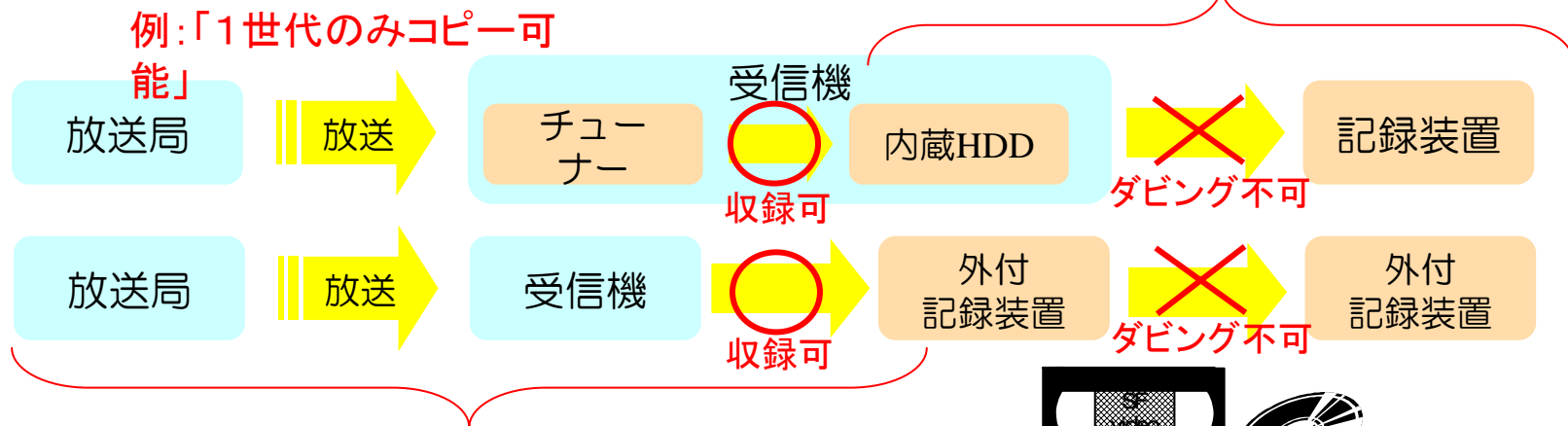


コンテンツ保護方式の概要

放送局から記録装置までトータルシステムとしてのコンテンツ権利保護機能が求められる。

民間のコンテンツ保護方式（デファクトスタンダード）により保護を実現。（例：DTCPやCPRMなど）

ライセンスとの契約等により、機器（伝送、記録）がコンテンツ権利保護機能を搭載することが担保される。



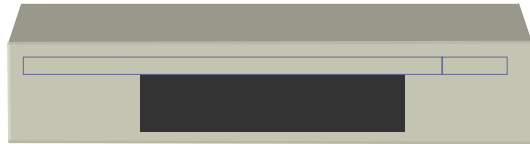
- 国の強制規格（省令、告示）
- 民間（ARIB：電波産業会）規格、運用規定

これらの中にコンテンツ権利保護規定が盛り込まれる。放送波は、伝送路暗号（スクランブル）が施され、これを解読するための手段の提供を受けるときに受信機は、コンテンツ権利保護機能搭載を担保する。



デジタル放送の番組は、テープやディスクなどの記録媒体に記録された後も保護されなければならない。

『1世代のみコピー可』の運用



受信機内蔵記録

再コピー禁止で記録

HDD



次世代 Disk



D - VHS

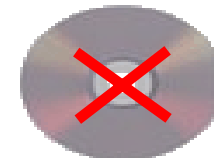


DVD-RAM、R/Wなど
保護機能あり
(CPRM)

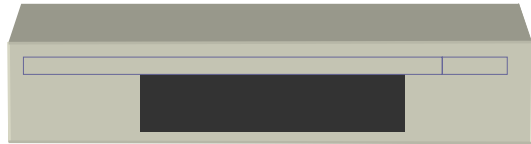


記録されない

保護機能のない
DVD-Rなど



『1世代のみコピー可』の運用



デジタル接続 (IEEE 1394 + DTCP)

再コピー禁止で記録

HDD



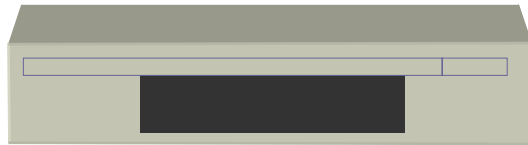
次世代 Disk



D - VHS



『1世代のみコピー可』の運用



アナログ接続 (CGMS-A)

再コピー禁止で記録

HDD



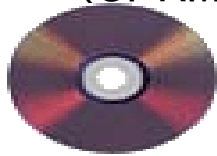
次世代 Disk



D - VHS

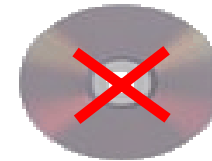


DVD-RAM、R/Wなど
保護機能あり
(CPRM)



記録されない

保護機能のない
DVD-Rなど

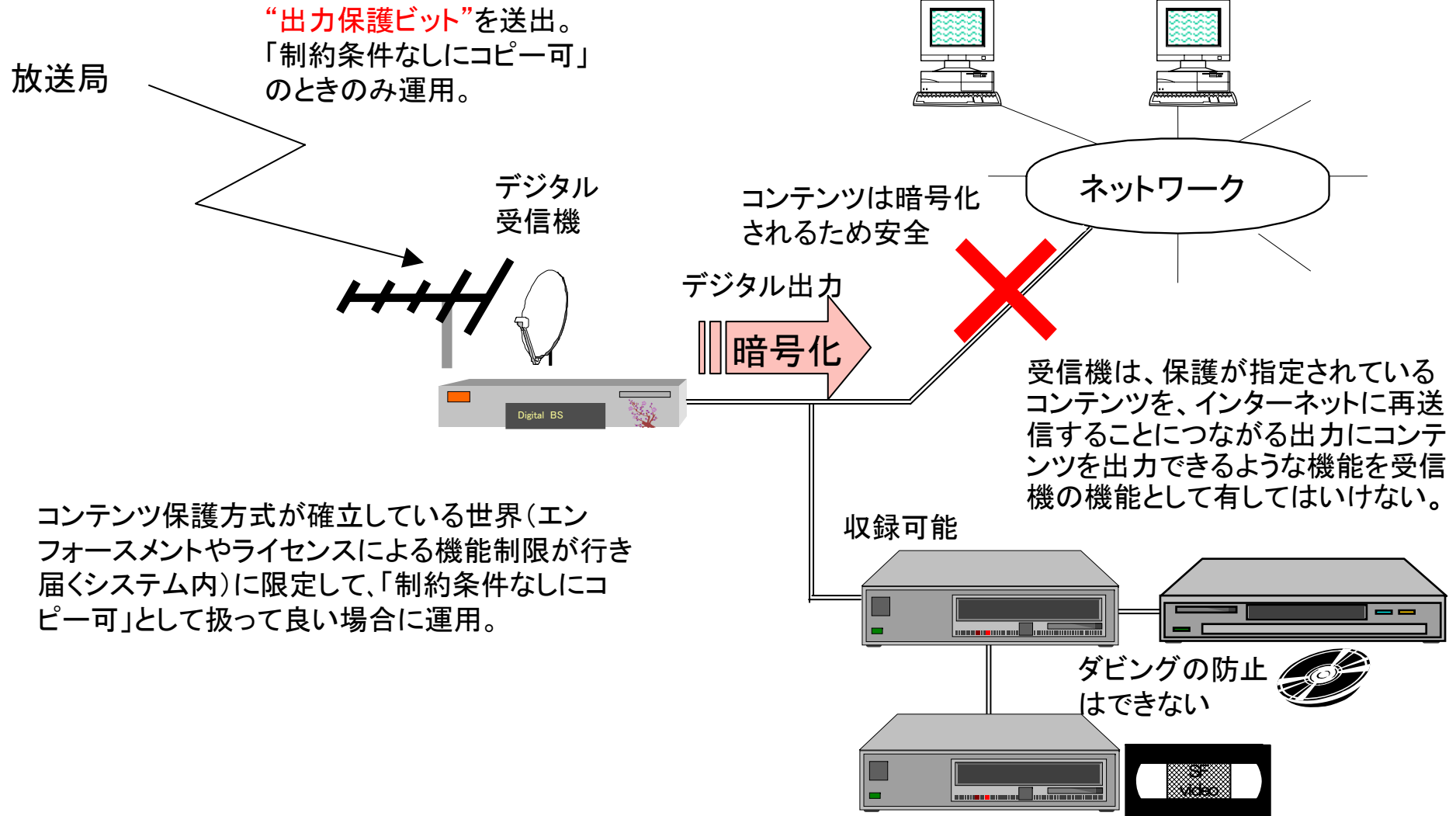


制限無しに記録

VHS、S-VHS

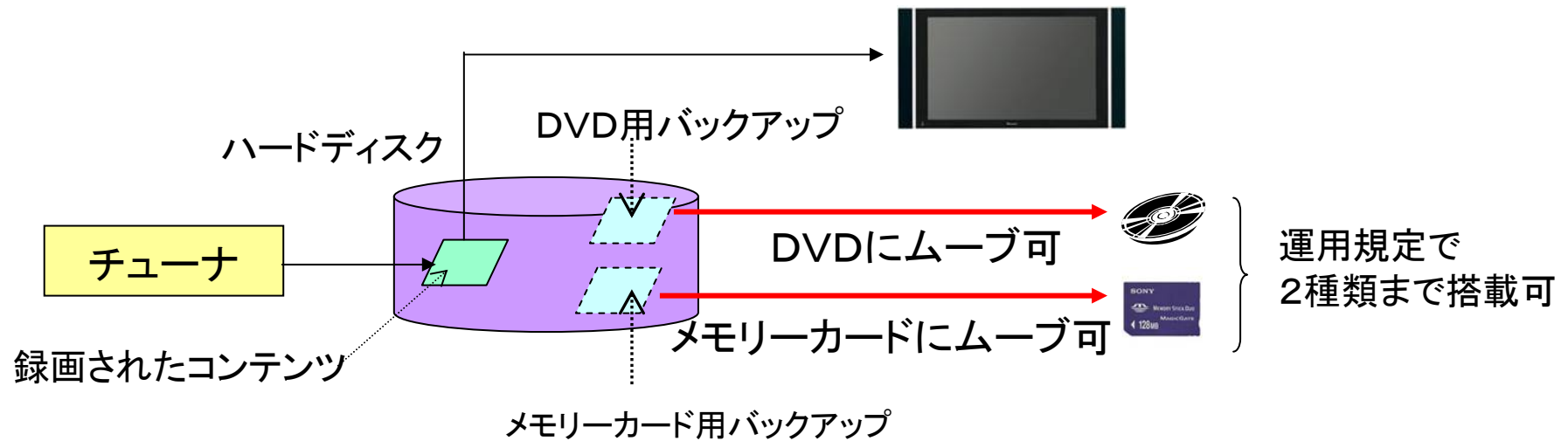


出力保護機能 (EPN)



改善案

- 『1世代のみコピー可』の運用の枠内で、受信機(録画機)の動作を改善。



- ムーブ等の失敗を防ぐため、ハードディスク内にオリジナルのほか、DVD・メモリーカードへムーブするための専用のバックアップコンテンツを用意。
- DVD等にムーブしても、HDD内のオリジナルはそのまま。ムーブに失敗した場合オリジナルをムーブすることが可能。(その場合オリジナルも消失する。)